

施策番号 2-1-2	施策名	社会教育の推進	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり		
			政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実		
	主管課	生涯学習課	課長名	江崎 健一	内線	451
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
学習機会や場の提供など学習環境の充実を図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民		・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学ぶことができる学習環境を整備する				町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組み、人と人とがふれあい、心豊かに充実した生涯を過ごせるまちづくり	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	生涯学習課調べ	人	419 (R3)	291				1,190	
② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	76.0	77.3				80.0	
③									
成果指標 設定の考え方	①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	113,681	146,554			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察				
①2023年度 の成果評価 (基準年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定される理由	①の指標は、読書感想文コンクールの応募数に大きく左右されており、近年学校で取り組まない学校が増えていることが要因であるが、それ以外の事業参加者は徐々にではあるが回復してきている。 ②については、公民館、図書館、ふるさと歴史館等で実施される各種講座等の事業に一定の理解がされているものとする。	
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった			
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した			
②第5期総合計画 後期実施計画 (2026年度)の最終的な 目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠 (理由)	新型コロナの5類移行に伴い、多くの事業が再開されたところであり、各種事業の参加も増えているところである。 ①の参加人数については、読書感想文コンクールの影響が大であり、それを除くと徐々に増えている状況。 5年振りに再開したトレーシーへの中学生訪問団の派遣は、異文化理解とお互いを尊重し合う心を育む等、教育効果が高いものである。 ジモト大学やコミュニティ・スクール事業等、町民を巻き込んで実施する事業を推進することは、まちづくりの一翼として貢献しているものとする。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能			
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい			
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括				
①施策の成果向上 に対して貢献 度が高かった事務 事業	少年教育活動運営事業	②施策の成果向上 に対して貢献 度が低かった事務 事業		
	コミュニティスクール運営事業			
	中学生国際交流事業			
③事務事業全体の 振り返り(総括)	新型コロナが5類移行し、事業がほぼ再開されたところである。 各種事業が再開された中で、各事業の点検、確認、必要な見直しに着手する必要性を感じる。 人財育成の観点からジモト大学の取り組みやコミュニティスクール事業が浸透してきたことは明るい材料であり、これらを推進することで、新たなコミュニティの創出にもつながるものとする。 ふるさと歴史館で茅室大火60年の特別展示には多くの来場者が来る等成果が見られ大変良かった			

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	ジモト大学、コミュニティスクールの更なる推進をはかるとともに、新型コロナの5類移行を機に、これまで実施してこれなかった事業が再開するなど、学習機会の充実がはかられたものとする。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習において「いつでも、どこでも、誰でも」が自由に学べる学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> → 電子図書の実施(R5.10～) → 身障者にも配慮した図書機能 子ども会活動の減少 <ul style="list-style-type: none"> → 子ども会の減少は、町内会活動にも通じるところがある。魅力創造課との連携も必要。 柏樹学園生の活性化 <ul style="list-style-type: none"> → R6年度学園生が前年を上回る等の明るい兆しはあるが、更なる活性化について検討していく コミュニティ・スクールやジモト大学事業の取組みによる地域コミュニティの活性化、地域教育力の向上 <ul style="list-style-type: none"> → 学校支援ボランティアの増、ジモト大学で関わる大人が増加しており、新たなコミュニティにつながる
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの取組みについて、CS通信、学校支援ボランティアの活動事例の紹介等について冊子作成、配布し認知度向上に努めた。 ・子ども会活動の継続支援(単位会の減少や役員のなり手不足) ・ふるさと歴史館の活用(各種講座、特別展示等の実施) ・図書館機能の充実

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育推進中期計画(R5-R8)の着実な推進 <ul style="list-style-type: none"> → コミュニティ・スクールの充実。地域学校協働活動の全町的な取組みと学校運営への明確な位置づけ。地域コミュニティの活性化。 → ジモト大学事業による人財育成。人的ネットワーク形成。地域コミュニティの活性化。 → 柏樹学園の充実(高齢者の学習機会、コミュニティの創出)。通園のための交通手段の確保。 → 単位子ども会の減少～町内会事情につながるもの ・社会教育施設の有効活用と維持管理 <ul style="list-style-type: none"> → 公民館機能の発揮(各種講座等の推進)。R7指定管理者選定。 → 図書館機能の推進(電子図書の浸透、拡大) → ふるさと歴史館の運営と事業の充実(各種講座、体験会、特別展示等の実施)

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに小さいころから茅室町の素晴らしさを知ってもらうためにも、課外活動(写生会)を行ったらどうか。 ・社会教育委員への取り組みの周知をしてほしい。 ・計画策定時にはない事業が増えていくため、成果指標の数値を%にするのはどうか。 ・民間主体での取り組みを、町が参加の促進(周知等)を図ってほしい。 ・大学生のまちづくりの研究への町として応援 ・電子書籍のAIの読み聞かせは、もっと温かみのある声がいい。 	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した					